

眞子さま、「農業の父」しのばれる



ブータンの西部パロで、伝統的な農家を見学された眞子さま。5日(代表撮影・共同)

【パロ(ブータン)】福田涼太郎(ブータンを公式訪問中の秋篠宮ご夫妻の長女、眞子さま)は5日、ブータン第2の都市パロで、同国の農業発展に尽力し、「ブータン農業の父」として知られる日本人の農業技術専門家、故西岡京治さんの功績をたたえる仏塔や記念博物館を視察された。

西岡さんは1964年に国際協力機構(JICA)の前身組織から農業指導者として派遣され、農業の機械化や新しい作物の導入などに貢献。92年に59歳で急死した際には、外国人として異例の国葬が執り行われ、現在も同国民から尊敬を集めているという。

眞子さまは記念博物館で西岡さんが当時、日本から持ってきた耕運機や写真パネルなどを視察。続けて丘の上に建てられた仏塔に移動し、ろうそくに火をともし一礼された。その後、パロの伝統的な農家を訪れ、西岡さんが実際に農業指導した水田を説明を受けながら見て回られた。

ブータン発展に命懸けた日本人



故西岡さん、友好の象徴

農業が主要産業のブータンで食卓を彩るさまざまな野菜。現在でこそ日常の光景だが、その陰には同国の農業発展に生涯をささげた西岡京治さん(写真(JICA提供))の活躍があった。現地の農業関係者は「日本との友好のシンボルである西岡さんの功績を、眞子さまにも知っていただけてよかった」と喜ぶ。

かつて鎖国状態にあった山国のブータンでは、野菜を食べる習慣があまりなかった。1964年に同国に渡った西岡さんは農業の機械化に加え、稲の改良や大根などの野菜栽培

の普及に尽力。西岡さんは2年の任期を終えた後も現地にとどまって指導を続行した。

当初は現地の技術者も半信半疑だったが、味の良さと高い収穫量で成果を出し、受け入れられるようになった。現地で一緒に仕事をした農業機械の専門家、北川伸二さん(60)は「ブータンの人たちは保守的で最初は苦労していたが、今は西岡さんが紹介した野菜であふれている」。

西岡さんは食料自給率を向上させたほか、食生活の改善などに貢献。80年に前国王から「最高に優れた人」という意味の称号「ダシヨー」を外国人として初めて贈られたが、92年の帰国を前に病死した。

眞子さまは記念博物館などで、何度もうなずくなど興味深そうに西岡さんの話を傾けられていた。西岡さんから指導を受けた農林省職員ワンディラさん(50)は「フレンドリーで心が温かい人だったけど仕事には厳しく、タフな人だった」と懐かしんだ。